

ITU-TにおけるNIDに関する国際標準化体制

■ ITU-TにおいてNetworked ID分野の標準化活動が起動

- ITU-T: International Telecommunication Union, Telecommunication Standardization Sector / 国際電気通信連合、電気通信標準化部門
- 本部: スイスジュネーブ

■ ITU-Tにおける主な体制

- JCA-NID: Joint Coordination Activity of Networked Aspect of Identification System including RFID (Chair: A. Probst (Swiss))
 - ITU-T内の関連するStud Group、ITU-T外の関連する標準化団体 (ISO/JTC1, ユビキタスIDセンター、EPC Global、ETSI、等との調整、情報交換を実施する)
- Study Group 16: Multimedia terminals, systems and applications (Chair: A. Probst (Swiss))
 - ※ ここでの“Multimedia”はAudio Visualという狭義ではなく、テキスト、画像、音声、動画、地図等を含めた、複数のメディアが混在する情報通信の標準化を扱う部門
 - SG16/WP2/Q22の中に、Work Item: “*Networked ID triggered multimedia information delivery services*”が成立している
 - タグに格納されたIDの読み取りを契機(トリガー)として、そのIDをネットワークに投げて (Networked ID)、「マルチメディア」情報配信サービスを受けるシステムに関する国際標準を確立する



SG16/WP2/Q22における作業プログラムと状況

SG16/WP2/Q22の状況

●ITUとISOの標準化領域の切り分け

—インターネットや携帯電話、電話網、次世代ネットワークなどの公衆網とIDタグを組み合わせて使う技術の標準化は、ITU-Tが行うことで、JCA-NIDでISOとほぼコンセンサスが得られている。

●議論の状況

—ITU-T内で、NIDに関する緊急性の高い標準化項目に関して、SG16で急ピッチに標準化が進められており、2008年4月までに緊急項目に関する勧告(Recommendation)を成立させる作業スケジュールが承認され、それに沿って活動をしている。

—議論や技術シーズに関するリーダーシップは日本が掌握しており、ドラフト規格として提案されているものは、すべてユビキタスIDセンターの規格をベースにしたものである(以下参照)。

—“Service descriptions and requirements”については、日本案がCDとなっている(現在編集中)

勧告(Recommendation)名	成立スケジュール	現状
Service descriptions and requirements → ITU-T Fシリーズ勧告化(F.mid)	2007年7月	2007年3月にYRP UNLが提出したドラフトが承認され、“F.mid”というドラフト名称をもち、Y. Takashima(YRP UNL)がEditorとして、現在CDを編集中。
Architecture → ITU-T Hシリーズ勧告化(H.mid)	2007年7月	2007年3月にYRP UNLが提出した、ユビキタスIDアーキテクチャに基づいたアーキテクチャが、First Draftとして承認され、“H.mid”というドラフト名称が付けられている。今後Q21(Multimedia Architecture)の課題の場で審議されたあとに、CD化する予定。
ID code → ITU-T Hシリーズ勧告化	2008年4月	2007年3月にYRP UNLが提出した、ucodeに基づいたID code規格を寄書として提出。ITU-T内外に、リエゾンステートメントとして、意見召集を開始する。
ID resolution protocol → ITU-T Hシリーズ勧告化	2008年4月	2006年11月に、YRP UNLが提出した、ucode解決プロトコルに基づいたID Resolution Protocol規格を寄書として提出し、現在この寄書をベースの標準化の議論が進められている。